

例年十一月の薬師尾根登山道整備は、登山客が少なくなるロープウェイ営業の最終平日に、草刈り機械を持参して徹底的な草刈(刈)を実施していた。今年は特別で、夏が暑過ぎ長過ぎて、十一月のこの時期になつても、まだ紅葉の一見頃」のようだ。観光客が多くい。前日に富士急の□□支配人に電話して、乗車の了



11時40分、会長早めに下山する前に

十一月四日(土) 薬師尾根登山道整備作業

報告編集部

第421号
発行所
郡山市喜久田町
あだたら山の会
編集部

二本
松市部連絡先
内(22)4245
1-5-5
渡辺正

解説つたが、其の時にお客さんの具合聞いたら、「今日も过多い」、機械使えそうかと聞いたたら、「客が多くないので、使えない」と思う」と言う事で、機械持参すると言っていた会員や持参し「機械持参は無し」の連絡をした。

さて当 日 午前八時の集合時間、それなりに登山客は多かったが、いつもの場所に装備広げて会員に配る、腕章は特に大事だ。お客さんが結構多く、駐車場一杯なので、私の車は、パトロール室下のヒミツの場所に置いた。

口に言ひやうと山頂から先
き始めた。ここに来たのは
十月十六日の勉強会だが、
其の時みんな早かつたの
で、つい其の時思い出して
早歩きになった。皆には文
句言われた。途中の白山石
楠花、芽芽が少ない、来年
も裏年か。

木道終点では水溜まりから泥水排除のため軽く排水路掘り、石拾って来て飛び石にした。その上の尾根の水平部分の登山道、「八重白山石楠花の森ポイント」(□□□作成の八重白山石

この日、一番上の作業場所は仙女平分岐、昼食後は下山しながらの仮払作業を行った。奥岳に下山したのは、十四時半。

今年の紅葉、「綺麗でない」。遠くから見るとそうでも無いが、赤に「茶が混じって」澄んだ赤じやない。カラマツも、例年の澄んだ明るい黄色じやなくて、赤の混じった、橙色がかつた黄色だった。

き易くした
登山道、見違えるようになつた、というか、以前の
様に通りやすくなつた。登山客結構多かつたが、徹底的
的な刈払い見て、感心している人が多かつた。もつとも
この道は、三十年以前は、
笹だけしか無くて、ハクサンシシャクナゲも大き
かつた、五葉松も小さかつた。

石敷並べた登山道に南側から灌木が被さり、排水溝だった所が道になってしまっていた。その被さっていた灌木全部切り倒した。石の道が利用可能となった。排水溝だったところには、入らないよう tràロープ張った。次は、仙女平分岐、勉強会の時、長い土嚢袋を置いた道の北側の藪の刈払を行った。此処も徹底的に五葉松などの道に張り出した灌木刈払った。表登山道分岐の上の泥濘道には刈払った箇などを置いて、歩



仙女平分岐での作業の様子です



仙台平分岐下の「蔽ポイント」を整理



今年最後の登山道整備作業でした



仙台平分岐の登山道への被さり解除

十一月十七日(金)

湯川渓谷丸札道標外し、
アルミ橋撤去

報告 □□□□

丸札道標取り外されて、閉鎖された塩沢登山口。
くろがね小屋工事で、登山道閉鎖中、「くろがね小屋には行けません」。

十一月十七日 雨模様で
天候が悪い中、塩沢湯川渓谷丸札外しを実施。当会は
一ヶ月前、来年度予
算作成の為に翌週に延期は
常々重く実施について前
日、市役所に確認すると、
市計画は八名参加の合計十
名。雨予報で足取りが非
常の三名参加。市役所都
「スケジュール、来年度予
算作成の為に翌週に延期は

難しく十二月中頃ならと言
われたがその時期だと降雪
もある事からやりたい」と
の話。そう言わると何も
言えず覚悟して来てください
といと伝え雨天決行?強行?
当日は雨なのでもちろん登
山者はわらずとても静かな
山歩きで、たまにはこんな
山もいいかと自分に言い聞
かせ一番から順番に丸札撤
去。途中、十二番の丸札が
設置していた木ごと倒木し
ており皆で探したが、どこ
かに飛んでいったようであ
り来年は切らないといけ
ない。

木箇所手前で新たに倒木が
失。以前からある大きな倒
木箇所手前で新たに倒木が
あり来年は切らないといけ
ない。

屏風岩あたりまで来ると
雪があり改めて冬の到来を
感じた。二十八番まで撤去
して二十九番、三十番は小
さなアルミ橋設置もできる
だけ早めにしないといけな
いと感じた。アルミ橋の移



6番金剛清水、皆雨支度



十一月二十三日(木)

装備点検

報告 □□□□



12番、行方不明、倒木



(会長からのメールです)
で来年の設置では多くの方
の御協力を願い致しま
す。

昨日の装備点検ですが点
検 자체は無事に完了してお
ります。

物品等の不足はありません
が、一部□□さん宅、な
ど個人で装備を持っている
方もいます。それを差し引
いて残数はありました。

あと、スケッドストレッヂ
や、救助用品1B0Xを
□□副会長が一月例会など
で練習するので持ち帰って
います。例会時には□□さ
んが持ってきます。

場所に関してですが□□
さんと行き違いがあったみ
たいで結果としてそのまま
継続して置かせてもらう事
になりました。□□さんは
最初置かせてもらう話を
してましたが事情を説明し
てあります。装備点検の写
真を送ります。



中の滝（三階滝）



三階滝のハシゴ

田畠の土手の草刈りもほぼ終り、体力維持に天気も良いので登山道工事中で通行止めのため屏風岩辺りまでと塩沢スキー場十時出発する。スキーエンターテイメントは紅葉しているので、乗車しむ事が出来るかなど欲があった。馬返しまで行くと少し落葉は始まっていたが、見事な紅葉が続き三階滝辺りが見頃、屏風岩辺りまでは紅葉が続いている。屏風岩十二時半、静かな一人昼食。妻にこの紅葉を見せたいと思い電話すると「菖蒲」。十二時十分このまま帰るのも勿体ない。久し振りに三階滝をと

ち葉の道、葉っぱの下は濡れいて滑り易い。慎重に慎重に。アルミ梯子は健在。鎖の押さえのトラロープは、賞味期限が迫って来ている為、事故の無い内に取り替えた方が良い様だ。又、三階滝コースも今の内なら刈り込み鍼で刈るだけで確保できるので、早めにやった方が良いのでは無いかと思う。久し振りに三階滝を見る事が出来、又おまけに紅葉も良かった。

翌日、妻と妻の友と湯川の紅葉を見る事が出来、妻がわかった。杉林を過ぎると急登となる。少し力エンドーがあるが水量も少なく口にしたくない様だ。休憩を取り込んでも登ると、奥の院の眺望を楽しみ山頂へ。尾根の歩き易い林の中、まもなく虎捕山の山頂である。三角点と小さな山頂道標があるだけ、記念写真を撮り十分ほどで下山となる。奥の院下より南の尾根、岩場の多い場所の下山となる。奥カサリ・ハシゴが多く、雨天時には下山しない方が良

個人山行・久しぶり三階滝へ

報告 □□□□

十一月二日(木)

個人山行

報告 □□□□

十一月十四日(火)

個人山行で虎捕山へ

報告 □□□□

十一月六日(月)

県山岳遭難対策協議会表彰

人に感謝状を手渡した。議事では、山岳遭難事故の防止に向け、協議会が発行しているチラシを年度内に刷新することを承認した。従来のチラシは専門用語が多く、中級者以上向けであつたことから、初心者向けの内容に変更するといふ。携行しやすいサイズにする。

城山クラブの山樂会は会員約二十名、毎月第二火曜日が定例会で主に四月～十月まで活動している。十一月は虎捕山で今年三回目の参加である。お城山駐車場八時集合、男性二人女性一人、屏風岩十二時半、静かな一人昼食。妻にこの紅葉を見せたいと思い電話すると「菖蒲」。十二時十分このまま帰るのも勿体ない。久し振りに三階滝をと

城山クラブの山樂会は会員約二十名、毎月第二火曜日が定例会で主に四月～十月まで活動している。十一月は虎捕山で今年三回目の参加である。お城山駐車場八時集合、男性二人女性一人、屏風岩十二時半、静かな一人昼食。妻にこの紅葉を見せたいと思い電話すると「菖蒲」。十二時十分このまま帰るのも勿体ない。久し振りに三階滝をと

手水舎上で合流し十二時十五分下山する。整理体操後、道の駅で昼食との事で離れた道の駅へ。食事の準備体操後、九時半入山する。

山津見神社の駐車場へ。川俣町、飯館村へ。登山口の夏無沼自然公園に寄り道をし、城山駐車場予定期間の三時無事着く事が出来た。

手水舎という水場があるが水量も少なく口にしたくない様だ。休憩を取り込んでも登ると、奥の院の眺望を楽しみ山頂へ。尾根の歩き易い林の中、まもなく虎捕山の山頂である。三角点と小さな山頂道標があるだけ、記念写真を撮り十分ほどで下山となる。奥の院下より南の尾根、岩場の多い場所の下山となる。奥カサリ・ハシゴが多く、雨天時には下山しない方が良



バス
(福島交通)
福島←相馬 行合道下車徒步約5km
福島←原町 真石下車徒步約7km

山岳遭難防止に貢献町田さんらに感謝状

県山岳遭難対策協議会は6日、福島市で総会を開き、山岳遭難事故の未然防止や捜索救助活動に貢献したとして、町田勇さん（あだたら山の会）らに賞状や感謝状を贈った。

協議会副会長の国分健児県観光交流局次長が20年以上活動の町田さんに賞状、10年以上活動の佐藤雄一さ

◆事務局が左目を怪我。都山の南東北総合病院に五日間入院し手術受けた。先月四日、薬師尾根登山道整備の翌朝午前四時頃、自宅階段上り踏み外して、顔面を階段で殴打。左目開けられないよう怪我してしまった。日曜日でも午前八時から開いている久保丁の眼科に行ったら、頭一周するX線写真撮られた。医者の説明聞いたら、「眼窩底骨折」、左目の下の細い骨、骨折しているといふ。都山の南北クリニックへ紹介状書くからと云われた。薬出してくれたので、

◆個人山行の記事下さい。メールだと有り難いのでAXも受信できます。



賞状を受ける町田さん

ほかの受賞者次の通り。
感謝状一瀧部修一、雁詠明子、林宏萬、林千明（猪苗代山岳会）

（福島民友新聞記事）